

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	3	実施計画番号	87	
事務事業名	消防水利の整備		事業開始年度	
担当課名	総務課		事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	消防法	関連事務事業		
背景や経緯等	消防水利の適正確保のため消火栓を新設し、道路改良工事等で支障となる消火栓の移設及び老朽化した消火栓の交換及び修繕を行う。			
事務事業の目的	消防水利を整備し、消防力を高め、地域住民の生命と財産を守る。			
実施状況	毎年、3基を新設するとともに、20基程度の修繕等の整備を行っている。			

【人件費の推移】

		24年度実績	25年度実績	26年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	15	15	15
	人件費(千円)	540	540	540
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

事業費合計(千円)	24年度実績	25年度実績	26年度計画
	7,700	7,700	7,700
うち一般財源	7,700	7,700	7,700
うち国県支出金			
うち地方債			
うちその他			

【指標】

活動指標	活動指標名①		新設後の消火栓数			
	計算式等		単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画
	毎年3基新設(その他開発行為等による増あり)		基	延数1,100	延数1,107	延数1,110
	活動指標名②					
	計算式等		単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画
成果指標	成果指標名①		消防水利の新設予定達成率			
	計算式等	単位	24年度	25年度	26年度	
	毎年3基新設(その他開発行為等による増あり)	基	目標値	1,099	1,103	1,110
			実績値	1,100	1,107	
			達成度(%)	100%	100%	
	成果指標名②					
	計算式等	単位	24年度	25年度	26年度	
		目標値				
		実績値				
		達成度(%)				

十和田市事務事業評価シート

整理No	3
計画No	87

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由	
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 / 4 消防活動に対する市民の関心が高いことから、都市整備状況を勘案し消防水利の確保困難地域の解消を図る。	
	② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2			
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	成果向上の余地 0 / 6 政策財政課と毎年消火栓を3基ずつ新設することで、協議済み。順調に整備が進んでいる。	
	④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2			
	⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	コスト削減の余地 0 / 6 水道本管整備の時期に併せて、消火栓を設置するように進めている。	
	⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
	⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 0 / 4 地元の要望を受け、消防本部と協議し、順次設置しているので受益の偏りはない。	
	⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
現在の適性					20 / 20	改善の余地	0 / 20

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ⇒ **現状のまま継続**

方向性の理由
火災時における、消防水利の適正確保のため、防火水槽及び消火栓を整備する必要がある。
今後の具体的な取組方策と狙う効果
消防水利が不足している地区があるため、計画的に、人工水利の整備に努める。整備においては、設置単価の安い消火栓を基本とし、消防水利の充足率及び水道整備状況等を踏まえ設置場所を決定する。